



2021 年度第 2 回理事会

議 事 録



一般社団法人 日本クレー射撃協会

2021年度 第2回理事会

議 事 録

1. 日 時 2021年8月18日(水) 午後1時00分～午後3時30分

2. 場 所 神奈川県立伊勢原射撃場 大会議室

3. 出席者 出席理事16名、出席監事3名

会 長 (議長)	高橋 義博 (神奈川)	* 強化委員長	
副 会 長	不老 安正 (福 岡)		WEB
副 会 長	三浦 正義 (秋 田)		WEB
副 会 長	丸石 博 (島 根)		WEB
専務理事	柏木 孝則 (三 重)	* 審査委員長	
常務理事	渡辺 久雄 (栃 木)	* 競技委員長	
常務理事	菊本 哲也 (東 京)	* 総務委員長	
理 事	坂井 則寿 (北海道)		WEB
理 事	栗原 貞夫 (埼 玉)		WEB
理 事	瀧根 隆幸 (富 山)		WEB
理 事	森 秀樹 (滋 賀)		WEB
理 事	三谷 千津男 (熊 本)		WEB
理 事	本戸 歳知 (埼 玉)		
理 事	安田 岸雄 (愛 媛)		WEB
理 事	岩尾 美和子 (和歌山)		
理 事	寺西 寛 (大 阪)		WEB
監 事	江野澤 吉克 (千 葉)		WEB
監 事	相馬 正 (青 森)		WEB
監 事	藤沼 弘文 (岩 手)		WEB

(欠席理事) 井出益弘、夏樹陽子、佐々木洋平

4. 陪 席 清水 光一 (東京五輪組織委員会)
大江 直之 (事務局長)
永島 宏泰 (JOC・アシスタントコーチ)
坂本 強 (本部事務局)

5. 理事会定足数確認

本理事会の定足数について、理事総数19名中16名の出席となり、定款第43条の規定により過半数以上の理事が出席しているため成立したことを事務局長より報告。なお、監事については江野澤監事、相馬監事、藤沼監事の全員が出席。

6. 議長挨拶及び議事録署名人確認

事務局長より、定款第 42 条に基づき高橋義博会長が本理事会の議長を務める旨説明し、高橋議長より、本理事会の議事の経過を議事録とし議事録署名人については、定款第 47 条に基づき、議長と出席監事 3 名となる旨説明。
また、審議に先立ち、高橋議長より出席理事各位に対し、挨拶と議事進行に際しての協力依頼があった。

7. 3R 宣言唱和

菊本総務委員長より、3R 宣言 8 項目を唱和。

8. 報告事項

(1) 2020 東京五輪について

議長より陪席した清水サブマネージャー（東京五輪組織委員会）の紹介があり、清水氏より挨拶。

3 年間、東京五輪の仕事に携わり、日本クレイ射撃協会及び伊勢原射撃場の皆様へ大変お世話いただいた。大会は大きな事故もなく無事終了、私自身、本当に貴重な経験をさせていただいた。この場をお借りし御礼申し上げる。

議長より、清水氏の他、中園氏、古谷氏計 3 名へ感謝状と記念品の贈呈について議場に諮り、これを了承。

事務局長より配布資料に添って、東京五輪における日本選手の成績説明。

また、個人種目は奮わなかったがトラップミックスでは五位入賞となり、JOC 基準に基づき内閣総理大臣より感謝状が贈呈される予定。

本理事会に出席している ITO を務めた岩尾理事、NTO を務めた渡辺委員長、柏木委員長、選手団のケアにあたった永島監督へ本当にお疲れ様でした、コロナ感染や熱中症もなく無事終えたことに感謝申し上げたい、と慰労の報告。

渡辺競技委員長、柏木審査委員長より、NTO として参加した競技役員は早い時期から会場入り、最終日までの暑い中、非常に一生懸命に大会運営を支えていただいたことに対して感謝申し上げたい、と補足説明。

議長より説明。

五輪に従事した関係者は、一生涯忘れない本当に貴重な経験をされたと思う。あと 1 点あればトラップミックスは決勝にいった、しかし 1 点で泣くのが射撃。強化委員会としては次回のパリ五輪に向けて、徹底的に反省会をやらなければならないと考えている。

(2) 第 76 回三重国体クレイ射撃競技について

事務局より配布資料に添って説明。

会期は 9 月 26 日公式練習が始まり 10 月 3 日に競技終了予定、会場は三重県協会が運営する三重県上野射撃場。監督会議のみ実施場所が海洋センターとなっ

ている。会場がTS各1面のため、コンパクトな役員編成を考えている。コロナ対策として、全競技を通じて開・閉会式は実施せず表彰式のみ執り行われる。関係者の三密回避のため、例年の倫理講習会も実施を見送った。その他、JSPOより連絡を受けているが、参加選手団（監督・選手）やマスクを着用せず従事せざるを得ない競技役員へのPCR検査義務付けが決まった。三重国体は昭和50年、都道府県対抗大会以来の大会実施となり46年振り。各位も周知の通り、三重国体から2-2-1方式が採用され、協会史上初めてトップ・スキート全県参加となる。その他、既に理事会で決定しているが来年度から本部公式、地方公式の全てがISSFルールまたはマスタールールになるため、JCSAルールによる国体実施は今回が最後となる。また、コロナ禍の影響により鹿児島国体が開催延期となり、開催県順序に変動が生じて次の通り予定されている。第4期選定は2021年度（今年度）実施される見込み。

★国体開催県

2019年（令和元年）	第74回茨城国体	○	JSPO 第2期選定
2020年（令和2年）	第75回鹿児島国体	×	
2021年（令和3年）	第76回三重国体	○	
2022年（令和4年）	第77回栃木国体	×	
2023年（令和5年）	（特）鹿児島国体	×	JSPO 第3期選定
2024年（令和6年）	第78回佐賀国体	○	
2025年（令和7年）	第79回滋賀国体	×	
2026年（令和8年）	第80回青森国体	○	
2027年（令和9年）	第81回宮崎国体	×	
2028年（令和10年）	第82回長野国体	○	JSPO 第4期選定
2029年（令和11年）	第83回群馬国体	×	
2030年（令和12年）	第84回島根国体	○	
2031年（令和13年）	第85回奈良国体	×	

中止による振替

柏木専務理事より補足説明。

東京五輪が延期されたことで今年度はテストイベントや五輪本番と、大変大会スケジュールが詰まっているが、国体成功に向けて各位のご理解、ご協力をお願いしたい。

- (3) ブロック本部公式大会②（岡山）について
 - (4) ブロック本部公式大会③（栃木）について
- 事務局競技担当坂本より、配布資料に添って説明。

★岡山大会

大会は5月末であったが、岡山県が緊急事態宣言下に組み入れられたところであった。ある程度参加辞退者は出たものの岡山県協会が予約大会は使わせてもらえる判断の下、コロナ対策を行った上で実施できた。

競技役員の経費削減に向けた協力を諸々いただき、参加選手数が減ったものの約11万円の黒字収支となった。

成績については、スキート種目脇屋昂選手が121点を記録し、3A賞、50ストレート賞、段級位6段を獲得した。

その他、のぼり旗や新しい横断幕を用意したり、大会が華やかになるような雰囲気作りに傾注した。反省点としては、成績表の掲載の際に、一部間違っただけの掲載があり、会員様から「間違っている」という指摘を受けてホームページで差替えをしたということがあった。再発防止に留意・対処したい。

★栃木大会

ニッコー栃木総合射撃場は民間施設であり、本部公式大会の会場として使用するのは初めて、永島社長よりいろいろご支援いただいた。参加選手も多く、トラップ3面使用108名、スキートも50数名の応募をいただき抽選で48名へ絞った状況であった。

収支については、地元渡辺委員長他、役員方々の協力をいただき60万円の黒字を出すことができた。

また、大会終了後の片付け、撤収作業についても競技役員皆が手伝ってくれたお蔭で1時間程にて終了。競技運営上も順調に終了した。

今回は東京五輪に出場する井川選手、大山選手の両名が参加しそれぞれ優勝、フジテレビの取材もあり、夜にはニュースでこの模様が放送された。

(5) 茨城県クレ射撃協会について

事務局長より配布資料に添って説明。

三重国体の国体選手を選考するにあたり、茨城県協会が理事会・総会にかけて、成績重視で選手を選ぶことを決めて選考会がスタートした。

選考会の結果をもって選考委員会が開かれ、1位の選手を外し2位・3位の選手を国体へ派遣することを決めた。外された理由は不明。

茨城県協会の決定について7月7日、本部事務局へ通報があった。

会長へ報告後、同じ関東ブロックである菊本総務委員長が茨城県協会岸本会長へ、事実確認のために翌8日、電話による聞き取り調査を行った。

翌週、関東ブロック大会がニッコー栃木で行われたため、関係者が参集。

茨城県協会岸本会長他幹部と、柏木専務理事、渡辺関東ブロック理事、菊本総務委員長、事務局で面談、予選1位で国体派遣から外された選手は、昨年度、県協会とトラブルがあり会員更新手続きを受け付けてもらえずに除名状態の方であった。この時は本部が間に入って、8月と12月に2回、当該会員と茨城県協会岸本会長らと面談した結果、会員への復帰が認められお互いに合意書を交わした経緯がある。

岸本会長の説明では、元会長がこの方に拘りがあるようで「茨城県協会を潰そ

うとした者を認める訳にはいかない」という持論を展開し、選考委員会の決定へと続くが、投票方法が意図的なやり方で諮られた。

茨城県協会の自浄努力により、再度理事会を開いて選手選考を決め直すことになったが、岸本会長が東京五輪のNTO参加を予定していたため、臨時理事会招集は五輪終了後の8月8日となった。

8月8日の臨時理事会へ渡辺関東ブロック理事、菊本総務委員長、事務局長の3名が陪席、その他茨城県スポーツ協会課長も陪席した。

臨時理事会では、当初の総会決定通り、選考会成績に基づいて選手を派遣することを決め、選考委員会の決定を覆した。

臨時理事会後、岸本会長らと意見交換したが、理事の決め方が杜撰であったことが判明した。全て前会長の指名で理事が選ばれ、前会長の意向に添わない理事は辞めさせられる状況が続いている。

今後は各地域から選出、例えば水戸市から1人、笠間市から1人とか、会員比率等を考慮し公平に理事選出が行われるように改善、学経理事は会長指名でも良いが細則を作り、理事や監事の公平な選出方法を確認するよう指導を行った。また、本部の通報制度も顧問弁護士と詳細な詰め段階にあるものの未だ運用に至っていない。ガバナンスコードの誓約もあるため、年度内に運用できるよう手続きを進めたい。

9. 審議事項

(1) 協会三原則(JCSA・MISSION案)について

議長より議案について配布資料に添って説明。

JSPOは加盟団体規定を改正、正加盟団体の要件として公益社団法人、または公益財団法人とした。同改正により、当協会は一般社団法人から公益社団法人へ移行しなければならず、その移行猶予期間が2024年(令和6年)3月末までとされている。およそ3年後だ。次期会長の不老氏には、会長就任後、すぐに着手するよう依頼してある。

次に、定款に掲げられた協会の目的、クレー射撃競技の普及・振興、競技力の向上の前に、そもそも「競技団体とは何か?」ということ協会で一切議論してこなかった。また、会則上ブロック制ではあるがブロック代表者の使命、地方協会の使命などについても、今まで何の議論もないまま現在に至っている。私自身協会理事を務めておよそ24年に至るが、その間、臨時総会請求、民事裁判等延々と揉めて、業務の概ねを揉め事処理に追われ、最近やっと協会の基盤整備に着手できるようになった。

当協会が一番の問題点は、競技団体というのは柔道、バスケット、バレー、全ての協会に等しく、競技を通じて人間性や人格の向上を図るもの、そして協会関係者である選手・役員・職員の幸福の希求、そして社会に対する貢献性を指すものである。

他団体に比較して、当協会はこの概念が欠けていると考える。欠けているから、先ほど報告があった茨城県協会のような問題が発生する。

茨城の問題だけではない。広島県協会も、ブロック予選で3位に入ったにも拘らず国体への参加を辞退、県体協から補助金停止処分を受けた。本部でも不当な執行部が自分らの要求が通らないから本部事務局を占拠し、補助金停止の上、JSPO、JOC、文科省から処分が下された経緯もある。一方で地方協会では、誰かがいきなり会長にある日突然、選ばれてしまう。競技団体は何をするものだという認識を持っていない方が会長になり、感情論に任せた運営を始めてしまう、本部の意向を無視する、様々なトラブルを生むことに繋がる。

競技団体は英知を持った理事が集まり、協会の進むべき道を決める機関が理事会であるべきだ。理事の要素は、まず競技に精通していなければならない、アスリートファーストは当たり前、スポーツマンシップとは何か…全て理解していなければならない。では、ブロック理事を選出するブロック傘下の関係者はその認識を持ってブロック理事を選んでいるか？…ということに繋がる。何の認識も持っていない理事が理事会に出席しても議論が噛み合わない。基本を共有していなければ協議も進まない。

先日の総会で事業報告に反対した正会員が居た。広島の正会員だったが、反対する権利があるという主張。もっともらしく聞こえるが、成り立ちを理解していない。

総会では会計の詳細、理事の執行状況を監査するために監事が選ばれ、総会の委任を受けて監査業務にあたるために、監事は理事会へ常に陪席している。当然、総会で理事会提案された事業報告も監事が監査済み。正会員が注視するのは自分達が選んだ監査役である監事の監査報告書に尽きる。その監事が適正である旨の監査報告書を総会へ提出しているのに、自分には反対する権利があると主張、これは監事を無視している行為に等しい。実態は恐らく誰かに反対しろ、という指示があったのだろう。次元の低い話だ。当協会はこの次元の低い話に逆戻りしてはいけない。だから、地方協会会長の在り方、ブロック理事の在り方、根本的に考え直さなければ治癒しない。ある日突然会長になる地方協会がある以上、47都道府県協会の正会員は必ず全員どこかの専門委員会に組み入れるべきだ。

私自身が会長職を退くにあたり、是非ともこの議論を各位と深めていきたい。47都道府県協会との認識共有に向けてどのような取組みが有効か。競技団体の使命は、競技を通じて人間性の向上を図る、選手・役員・職員の幸福を希求する、社会に対する貢献性。この3つが定款より先にくる使命なのだ。この観点に立ち、今の理事選出方法は適正か。現状各ブロックから1人選出することが本当に正しいのか。東京五輪における柔道の活躍は凄かった。特に監督の井上康生氏は優秀だ。ずば抜けている。メダリストのインタビューを見ても立派な対応だ、しっかり教育されている。

柏木専務理事より、卓球も同じ感じがしたと意見。

議長より続いて説明。

卓球も水泳も同じ。ちゃんと選手はインタビューの際の指導を受けている。比べると当協会は遅れている。良い環境を施さないと選手は育たないことを痛感している。

先ほど申し上げた議論を深めていけば、当協会の未来は明るいと考えている。現在はコロナ禍のため、良い議論ができない。47都道府県協会へどうしたら認識共有が図れるか、理事・監事各位にアイデアを出してもらいたい。加えて、女性理事の選任も含めて理事の選任方法についても各位に意見をお聞きしたい。

事務局長より補足説明。

公益社団法人への移行について公益法人協会へ問合せたが、現在はコロナ禍のため相談窓口は開かれていない。WEB等で調べたところ、概ね手続き申請から認可まで1年弱の時間を要しているようだ。

また、配布資料に示す通り、「NFとは何か？公益法人とは何か？」という定義に基づき「JCSA・MISSION」は定款より先の位置付け、インテグリティ（高潔性）にあたるかと考えている。

JCSA・MISSIONの下にガイドラインがあり、定款・諸規定、事業の順で下りてくるイメージである。是非、共有願いたい。

寺西理事より意見。

当協会の公益法人への移行にあたり、「クレー射撃の公益性はどこにあるか？」ということを考える必要がある。そうすれば解決に繋がるのではないか。

一例として、大阪府猟友会が一般社団法人から公益社団法人へ移行した。私自身、その移行手続きに携わったが、大阪府猟友会の公益性は何かと言えば、それは有害鳥獣駆除、これが社会への貢献性だった。

議長より補足説明。

アンケート調査では、クレー射撃の社会への貢献は何か？についても意見を求めることを追加する。

(2) その他

事務局長より報告。

◇三重国体について（補足）

三重県スポーツ協会から柏木専務宛てに先ほど届いたメールによれば、総合開・閉会式のみならず、実施競技全会場を無観客で実施すること、来る9月4日、三重国体を予定通り実施するかどうかの最終決定が為されることが記されている。正式な通知は後刻JSPOより届くと思われる。

◇兵庫県チームのペナルティについて

第74回茨城国体時に兵庫県チームが急遽棄権辞退し、JSPO国体委員会が

らペナルティ相当と判断され、三重国体では参加得点 10 点が与えられないことになったことを既に理事会で報告済みだが、近畿ブロック森理事より本件に関する問題提起の FAX が本部事務局へ届いている。

本件は、ペナルティを科すもの・受けるものが双方了承済み、既決している案件であることから、後日、会長、柏木専務理事、森理事で話し合いたい。

◇コロナ対策

本戸理事の提案があり、本部公式大会における検温時に規定より高い数値が出た選手についてパルスオキシメーター（血中酸素測定器）を使用することを申し合せた。

議長より、以上で報告事項、議案審議の総てが終了したことを告げ、出席各位への慎重審議に対して謝辞があり、閉会を宣した。


なお、次回の理事会は 2021 年 10 月 27 日に行うことを申し合せた。


午後 3 時 30 分 閉 会


2021年8月18日

一般社団法人 日本クレー射撃協会

議長 高橋 義博  印
(会長 高橋 義博 自筆署名)

議事録署名人 江野澤 吉克  印
(監事 江野澤 吉克 自筆署名)

議事録署名人 相馬 正  印
(監事 相馬 正 自筆署名)

議事録署名人 藤沼 弘文  印
(監事 藤沼 弘文 自筆署名)